

書籍紹介

『現代人のためのイスラーム入門』

ガーズィー・ビン・ムハンマド王子著、小杉 泰・池端露子 訳

中央公論新社、2021年7月25日、2700円+税

ヨルダン・ハーシム王国は、預言者ムハンマドの直系として、第41代目のアブドゥッラー2世を国王にいたいただく王国である。その王国で、現国王の叔父の息子であるガーズィー・ビン・ムハンマド殿下が、本書の訳者、小杉泰先生とケンブリッジ大学で客員研究員とともに研究をしたというご縁によって、本書の日本語翻訳と出版が実現した。英文で書かれた本書は、著者が王家の人らしく、まず現国王の序文で始まっている。

内容は、クルアーンとハディースを縦横に駆使しながら、イスラームの教義・歴史、信徒の生活、イスラーム法、ジハード、宗教と政治などについて、丁寧でわかりやすい解説をしている。原題が *A Thinking Person's Guide to Islam* であるように、「イスラームを学びたい」と願う人に対して、懇切丁寧に説明をするというかたちをとっている。しかし、日本の読者にとっては、何よりも日本語の訳文が柔らかく、美しい日本語に直されているのが、印象的である。同じことを説明するにも、もしも、固い表現で厳格な宗教用語で翻訳されいたら、多くの人は、2,3ページをめくつただけで、読書欲がわいてこなくなるであろう。

本書の末尾に付録として「イスラーム国という危機」が掲載されている。イスラームの宗教世界のただなかで活躍する学者としての著者による「イスラーム国」についての丁寧な分析と批判である。ヨルダンも国家として「イスラーム国」から大きな被害を受けているが、著者は居丈高になって誹謗するのではなく、クルアーンの教えに基づいて、冷静で丁寧に説明している点には、教えられることが多い。日本では『イスラーム教の論理』(飯山陽著)のように、「イスラーム国」のテロリストの思考は、すべてクルアーンの論理から見て正しいことであり、イスラーム自体がこのようなテロを勧めているからである、と声高に叫んでいる人々があるが、これこそ、まさに誹謗中傷の域を出ない。

テロはどの宗教の中からでも出現する可能性があり、イスラームだからテロ集団が出現するというものではない。それは、政治や社会の混乱の中で不満を抱く少数集団の暴挙を、強力な正規の軍隊が面と向かって対抗措置を敷くことに対する抵抗運動として実施されることが多い。シリアもイラクもアフガンも、そしてリビアも、この図式の範囲内にある。

本書は優しくわかりやすい日本語翻訳とともに、イスラームの教義とその歴史・文化・政治・生活など、イスラームの精神世界の全体像について、丁寧に説明されている教養書でも

ある。500 頁を超える大部の書籍であるが、読み始めるとわかりやすく読み進められる貴重な解説書である。

私共は、子育ての最中に 3 年弱、ヨルダンの首都アンマンで暮らした経験があり、まだお元気だったフサイン国王や、ガーズィー殿下のお父君ムハンマド殿下、当時、皇太子でいらしたハサン殿下とも何度か出会うことがあった。余談ではあるが、本書のお蔭で、懐かしいヨルダンの四季とお世話になった人々の顔を思い出すことができた。(塩尻和子)

『中東・イスラーム世界への 30 の扉』

西尾哲夫・東長 靖 編著 ミネルヴァ書房、
2021 年 7 月 30 日、2700 円 + 税

本書は京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科付属イスラーム地域研究センターの研究プロジェクトの成果の一部として出版されたもので、わが国の研究プロジェクトの高度な成果を公表するものとして、中東・イスラーム世界を理解するために必要な 30 項目を選び、それらを五部にわけてわかりやすく解説したものである。

各項目の担当者は、それぞれ十分な時間をかけて専門的に研究を進めてきている立場から、優れた知見を披露している点も、本書の学術的価値を高めている。また、各章の合間に、研究者のユニークな見解を簡潔にまとめた「トピック」が配置されており、単に研究成果を公表するだけでなく、読者の興味と関心を引き出すように工夫もされている。そのために、これから機会を得て、中東・イスラーム世界を専門に研究しようとする人々には、自分が関心を持つテーマを探すのに役立つ優れた入門書ともなっている。

しかし、ここで表現されている「30 の扉」は、単に初心者に向けた簡便でわかりやすい優れた入門書であるだけでなく、幅広い視点からほかの項目につながっていく研究の流れを把握してまとめられていることも忘れてはならない。すでに個別の研究を進めている専門家にとっても、中東・イスラーム世界の横のつながりを再確認する貴重な機会となっているからである。

それぞれの項目は、ページ数の制限の中で簡潔に短くまとめられているが、専門家であれば、行間に浮かび上がる世界的な諸問題を見つけることができるであろう。それは、この「30 の扉」を超えて中東・イスラーム世界からこの地球上の各地へと向かっていき、各地で共通する人類の諸問題に行きつくことであろう。中東・イスラーム世界から飛び出した深刻な問題指摘が、時あたかも新型コロナウイルスの感染拡大に立ち向かうように、私たちに新し

い視野を、新しい世界の共存を、考えなおす良い機会となるように、仕掛けられているようと思われる。

370 頁という大部の書物であるが、話題が項目ごとに分かれているので、読者は関心のある箇所から読み始めてよく、どこから読んでも丁寧でわかりやすいように工夫がこらしてある。そのために、本書は学生だけでなく、多くの人々に読まれてこそ、その本領が發揮できる。多くの人々に本書を読んでいただき、日ごろのニュースや報道を正しく理解するために、このような高度の学問的に裏打ちされた豊富な知識を身に着けていただきたいと願うものである。(塩尻和子)

